

海軍軍令部

大正四年十一月十五日

横須賀鎮守府司令長官 藤井 較

海軍軍令部長 島村速雄 殿

戰時日誌提出ノ件

大正四年十月横須賀鎮守府戰時日誌 一冊
右提出ス

終

0749

横須賀鎮守府戦時日誌

第拾五回

0750

記事ナシ

大正四年十月一日 金曜 曇

0751

十月二日 土曜 雨

千早艦長ヨリ電報

十月一日ヤツプニ向ケハラキ發

午前八時六分着

臨時南洋防備隊司令官ヨリ電報

午前八時九分着

南海丸一日サイパンニ向ケ發

軍務局長ヨリ參謀長宛通知

十月一日附

臨時南洋防備隊下士卒ニ関スル件

今般クサイ分遣隊撤廢ノ結果本年七月一日附軍務機密第二四五號ヲ以テ申進候別表中 水兵四一等機関兵一、二等機関兵一、掌電氣兵一ヲ加ヘカシ

0752

記事十三

十月三日 日曜 曇

ノ欄ヲ削リ持修兵ノ部掌工兵ノ項トラツクレノ欄ニシテ
三ニ故メ計ノ欄ニ候條御了知ノ上可然御取計相成
度
石申進ス

0753

十月四日 月曜 快晴

千早艦長ヨリ電報

午前七時五十分着

十月二日 ヤツブ 着

浅間艦長ヨリ電報

午前九時十分着

本艦飯朝、遠船橋無線電信所ト通信試験ヲ行フ必要
アルハ十月六日横濱及及丹波丸ニテ右ニ對スル方案御
送付相成度

十月三日 浅間艦長

0754

十月五日 火曜 快晴

臨時南洋防備隊司令官ヨリ電報 午前七時二十六分着
鹿見島丸三日トラック着 四日ボナベニ向ケ發

參謀長ヨリ淺間艦長ニ照會

無線電信通信試験ノ件

御照會ノ通信試験ノ件別紙方案ニ依リ施行矣
俾可然御取計相成度

右照會ス

(別紙省畧)

0755

十月六日 水曜 曇

千早艦長ヨリ電報

午前七時五十八分着

十月五日佐世保軍港ニ向ケヤツノ島發

海軍次官ヨリ通知

十月四日付

戦利艇轉送ノ件

本件ニ関シ別紙ニ通佐世保鎮守府司令長官へ申進
置候條受領ノ上六進テ何分ノ儀申進候迄適宜
貴社ニ於テ保管置相成度

右依命申進ス

(別紙)

大正四年十月四日

海軍次官

0756

佐世保鎮守府司令長官宛

戦利艇轉送ノ件

曩ニ臨時青島要港部ヨリ送付越シ目下貴府
ニ於テ保管中ノ左記戦利艇ハ便宜横須賀鎮守
府へ轉送相成度
右依命申進ヌ

左記

- 一 棧働艇 貳隻
- 一 内火艇 壹隻

新造ノ棧働艇及棧働艇ナキ分
長廿三ノ内火艇ノニテ推進器推進
軸及舵輪ニ存在シ棧働艇ナキモノ

南海丸隨督官ヨリ電報

午前八時一分着

四日午前廿イ。パン着正午二見ニ向ケ發

臨時南洋防備隊參謀長ヨリ參謀長宛電報 午前時子方着

アソカウル問題モ畧ホ片付タル結果運送船航路ハ次

回ヨリ東廻リ便ヲ先ニ致スラシムコトヲ希望ス

又カイバンニ在ルカライ島民八十モクモハ島民六十

ハヲ返還セシムル為メ其ノ他必要上次回便ニ限リ特ニ

通寄港地追加御依頼ス

但レ孰レモ碇泊時間數時間ニテ差支キ見立

ニ東廻リ便往復共ニクサシ寄港ノコト

ニ西廻リ便ノ往航トラスクハ次ニオレアイニ加ヘ

復航トヤツトハ次ニモクモハ加フルコト

右ニ對スル貴社ノ御都合承知シ度

記事十二

十月七日 水曜 雨

十月八日 金曜 快晴

参謀長ヨリ軍務局長ニ通報

運送船航路ノ件

南洋方面運送船航路ニ関シ別紙甲第ノ通南洋
防備隊参謀長ヨリ電報有之乙第ノ通回答致

0759

置佐條御参考迄
右通報又

(別紙)甲

(十月六日臨時南洋防備隊參謀長ヨリ電報ト同文ヲ省ス)

(別紙)乙

參謀長ヨリ臨時南洋防備隊參謀長宛電報
運送航路ノ件ヲ希望通旨施シ得

南海丸監督官ヨリ電報

南海丸七日午後二見着

午前八時三分着

0760

十月九日 土曜 快晴

軍務局長ヨリ參謀長へ通知 十月八日附

本月至三日頃止多クイモル止發本邦ニ取航豫定ノ
軍艦隊向ト船橋無線電信ヲ向テ左記要領ニ依リ
通信試驗ヲ施行セシムル様御取計相成度

石申進又

追テ淺間ニ本件ニ關シ本日電報セシ候

左記

中央標隊時ニ十月二十日以後毎日午後七時ヨリ二十分
間船橋無線電信ヲテ送信スルコト但シ辛酉辛
七日辛巳日ハ大演習ノ關係上通信試驗ヲ行フス

0761

十月十日 日曜 晴

海軍大臣へ電報

「クサ」在任 アメリカ人「ハーマン」年三十一、職業農
行先地、素説、目的、學校入學、防備隊司令官
新可ヲ得テ南海丸ニ便乗、横須賀ニ着
セリ、慶置方指令ヲ乞フ

0762

十月十一日 月曜 曇

参謀長ヨリ軍務局長宛

船橋海軍無線電信所對軍艦淺間無線電信通信試驗方案 表

右送付ス

(別紙)

参謀長ヨリ各関係部へ通知

無線電信通信試驗ノ件

別紙方案ニ依リ船橋海軍無線電信所對軍艦淺間無線電信通信試驗施行候條御参考迄

石通知ス

(別紙)

0763

船橋海軍無線電信所對軍艦淺間
無線電信通信試驗方案

一、目的

船橋無線電信所及軍艦淺間ノ通信能力ヲ驗スルニ
アリ

二、試驗期日

船橋電信所ハ十月二十日以後毎日送信ヲ行淺
間ハ適當ノ時核ヨリ送信ヲ開始ス但シ十月二十四
日七時八分三日前ハ大演習ノ關係上通信試驗ヲ行ス

三、試驗ノ種類

(1) 晝間試驗

毎日午前七時午後二時ノ二回之ヲ行ヒ毎回ノ初
メ十五分間ハ船橋電信所次ノ十五分ハ淺間ノ

0764

送信時ト本試験終結ハ船橋電信所ヨリ其
旨軍艦浅間ニ通信ス

四) 夜間試験

毎日午後七時午後十時ニ回之ヲ行フ其ノ他(1)

拂ノ通

四) 本試験中兩所呼出符ヲ次ノ通ト定ム

船橋無線電信所 (T—T—)

軍艦浅間 (T—T—)

送信ニ際シテハ右規定ノ呼出符ヲ十数回連

呼ビ對方ノ應答ヲ待ツコトナク本文ヲ電送ス

ルモノトス

五) 軍艦浅間ハ送信ノ都度其ノ艦位ヲ本文ニ挿入

ルモノトス

六、本試験中止ヲ得ルニ資用通信アルモ其ノ
時刻ノ通信ヲ停止ス

七、本試験終了後西試験所ニ於テ左記様式ニ準シ
成績表ヲ作成シ之ヲ交換スルモノトス

無線電信通信試験送信成績表

時刻
分 離位 且 距離 通信長 地電流 記 事

無線電信通信試験受信成績表

時刻
分 天候 空電 有 感度 信 文 記 事

臨時南洋防備隊參謀長ヨリ參謀長ニ依頼 九月二十一日附
アシカール分遣隊ニ臨時下士増置ノ件

0766

當南洋群島に於て島嶼諸設備ヲハライテ整備
 隊トシガ此分遣隊ニ於テ當分保管スルモノ相成
 ル為メ同分遣隊ニ左記ノ人員臨時増置ヲ要シ別紙
 甲類ノ通當隊司令官ヨリ海軍次官ヘ電報ニ對シ
 師通回答ヲ待候ニ就テハ同人員最近便ニ補充相
 成様御取計ヲ得度

- 一水 二 三水 四 三核 一 (一) 艦ハク電機兵ヲ要ス
- 一核 一 三核 一

右依頼ス

進テ本件人員ハクサレ分遣隊現員ノ内ヨリ差繰
 リトシガ此分遣隊ニ配員スルヲ便トスルモノハ現
 員ハ既ニ當方面勤務長期ニ立ル者ノトシテ全部送
 還ノ上トシガ此ハ別ニ配員ヲ受クルヲ至當ト認メ

タル次第ニ依高目下「ア」ガウ止ハ「ト」ヲツク及「ロ」ヲ
ヨリ一時下士卒ヲ派遣シ間ニ令セ居ルモ派出元ニ於テ
甚シク人員不足ヲ訴ヘ居ル現状ニ付御令ニ上奔
御取置ヲ得度

(別紙) 甲 端

九月十三日 茶 虎

電報

受信者 海軍大臣
茶 虎 司令官

クヤ山分遣隊撤廢ノ上ハ各隊現配員ノ中ヨリ一水
ニ二水四ニ核四(或ハ八ノ等)一核一ニ核一ヲ「ア」ガウ止
礦保管ノ為當分同地分遣隊ニ増遣ノ下ニ御系
諾ヲ得度再懇御協議ニ及ノ尤モクヤ山現配員ハ
全部南海丸便ニ播置督ニ送還ノ事定ニ在右増員
ハ別ニ補充ヲ得度希望ス「ク」ヤ山分遣隊ハ九月二十

0768

四撤祭ノ予定

乙類

九月二十一日着電

祭儀者海軍大臣
兼佐官司令官

カサノ分遣隊撤祭後カガウ島ニ下士卒増員ノ件ハ御意見通實施セラレテ支ナシ

海軍大臣ヨリ電報

午前十一時一分着

十日付電業米國人(ハナシ)ハ便宜解放スヘシ

神奈川縣知事ニ電報

南海丸便業カガウ島ヨリ横須賀ニ着シタ米國人

(ハナシ)本日午後一時及後佐務部汽艇ニテ貴地ニ

送ル

0769

海軍大臣へ電報

本日午後二時米國人一二三解放シタリ同人ハ午後三時
四五分横濱賀登ノ汽車ヲ横濱ニ向テ出發セリ

神奈川物知事へ電報

米國人一二三ヲ汽艇ヲ貴地ニ送ルコトヲ取止メ本日
午後二時當地ニ於テ解放セリ

参謀長ヨリ軍務局長へ通報

南洋群島ヨリ獨逸人後送ノ件

左記ノ通南洋群島防備隊参謀長ヨリ電報有之
候存御参考ノ為
右通報又

0770

左記
（午前七時五分着）
次回送送船便ヲ心ラオ島獨國宣教師男女
五軍事上ノ必要ニ基キ退去セシメラズ、等為念

臨時南洋防備隊副官ヨリ依頼
臨時南洋防備隊第一号

九月二十日付

外國人便乗ノ件

左記米國人當方面退去敵國希望ヲ本人ヨリ願
出言、送送船便乗ヲ許可セシメ、弁込島ヨリ貴地
迄今向南海丸ニ便乗セシメ、假條貴地上陸ノ際
ハ可然御取計ヲ得度
右御依頼ス

参謀長ヨリ淺田艦長へ電報

0771

無電試驗時前ハ本村ヨリ丹波丸ニテ發送セル方案
ノ通期日ハ軍務向長電報ノ通實施ス

臨時南洋防備隊司令官ヨリ通知 九月二十日付

戦利品後送ノ件

別紙目録ノ戦利品今回南海丸便ヲ以テ後送

致候

右通知ス

(別紙)

廿一日ハ南洋防備隊

後送品目録

事

品名	数量
錐葉包	六〇〇

0772

空
包
火線
巻

箱 同

三〇〇
ニ

三〇
把入

0773

十月十二日 火曜 雨

南海丸監督官ヨリ通知

十月十日付

外人ニ関スル件

一行先米國ヨリホルランド州ノオークランド

(乘船經由東洋汽船ニ乗船ノ事決定)

一、クナイ島左位ノ理由

ハ、マンノ叔父ハ、クナイ島ト云フ者ニシテ永年クナイ島

ニ住シ土地財産ヲ有シ子ノキ為叔父ノ財産相續者

トシテ五年前米國ヨリ渡来シ叔父ヲ助ケテ椰子栽培

場ニ従事セリ

一、飯國ノ目的

軍政ヲ布キ外人ハ島ト島ト交通ヲ禁止セラレ

0774

且椰子ノ輸出之思_レ任セサル有様ナラ_レ以テ且
飯國ニ勉強ノ上平和克復ノ後再ニ渡来セ_レトス

参謀長ヨリ軍務局長ニ通知

南洋群島ヨリ後送外國人ニ関スル件

臨時南洋防備隊司令官ノ許可ヲ得テ南海丸ニ
便乗シ本月十日横須賀ニ着_レタル米國人_ハ今_レ迄
ニ就キ取調_ル事項並處置左記ノ通

右通知ス

左記

一 國籍

斐利加合衆國

一 氏名

ハーマン

一 年齢

二十四歳

0775

一行先地

秦港ヲ至テホークランド

職業

農 五年前米國ヨリ渡航叔父ヲ助ケテ柳

帰國目的

子ノ栽培ニ従事セリ
就學ノ為飯國ニ致ル終熄後再ヒ渡來

セントス

一 臨時南洋防備隊ニ採リタル處置

防備隊ヨリ本村宛依頼別紙臨南洋
第四号ノ通

一 本村ニ採リタル處置

訓令ニ依リ土日午後二時解放退船セ
シメ横須賀警署署巡査ノ保護ヲ受
ケテ午後二時甲五方横須賀發ノ汽車
ニ横濱ニ向ヒタリ

0776

參謀長ヨリ軍務局長美雄宛電報
南海丸來ル十五日午後一時出港十八日午後着
豫定

南海丸ヨリ通知

南海丸行動予定ノ件

本船今回ノ行動予定左記ノ通ニ有之候

横目賀

其

十月十五日午後一時出港

十月十八日午後入港

0777

訖事ナシ

十月十三日 水曜 晴

十月十四日 木曜 曇

海軍次官ヨリ通牒

十月十三日附

第一艦船部使所移轉ノ件

今回南海丸ニ設置ノ第一艦船部使所ヲ一時横須賀
海軍港務部ニ移セ候處同所詰部使吏ニ追テ
必要ニ際シ南方面ニ派遣セシメラルル事定有之條
御令旨相成度
右為念通牒ス

0778

記事十二

十月十五日

金曜

晴

記事十三

十月十六日

土曜

曇

記事十四

十月十七日

日曜

雨

0779

十月十八日 月曜 曇

臨時南洋防備隊參謀長ヨリ電報

午前六時三十分着

ヤルトト島ヤルトト會社使用人獨逸人(ゴラー) 不穩ノ者ト認メ宣哲ノ上鹿見島ヲ退去セシム

夕リ

大正四年度海軍大演習第一期捕頭督鎮守村演習開始

0780

十月十九日 火曜 快晴

臨時南洋防備隊司令官ヨリ電報 午前八時三分着
鹿兒島丸十七日トラツク迄着十八日カイパンレニ向ケ
發

0781

十月二十日 水曜 快晴

臨時青島防備隊司令官宛

戦利品領收ノ件

一 戦利品

飛行機破片

走拵

右領收ス

海軍大臣へ報告

不用戦利品元受ノ件

本年八月十二日受領第三戦隊司令官送付係凡
戦利品中別紙物由ニ使用ノ見込無之ニ付海軍戦
利品取扱規程第七條ニ依リ通常物由ニ元受セシメ
候

0782

海軍大臣報告

戦利品受領件

右報告書
(別紙)

品名	数量	単位	見積	代價
小銃	式	式	〇〇〇	〇〇〇
拳銃	式	式	〇〇〇	〇〇〇
獵銃	式	式	〇〇〇	〇〇〇
薄習用煤炭	担	担	五〇〇	五〇〇
剣	式	式	五〇〇	五〇〇
乾電池	式	式	〇〇〇	〇〇〇
分儀	式	式	〇〇〇	〇〇〇

(小銃三挺の内)

使用見込たる摩品ト認定
小銃三挺報告に使用、集三挺上(九)

0783

臨時青島防備隊司令官送付係ル左記ノ戦利品
 本月十六日受領
 石海軍戦利品取扱規程第三條ニ依リ報告

左記

品名	数量	備考
飛行機破片	七	本年十一月官房第三分室ニ依リ送付

一巻

0784

十月三十一日 木曜 曇

橋立艦長ヨリ參謀長宛電報 午前八時三十五分着

本日海上濃氣アリ掃海實驗豫定通實施シ難
キニ付明日午後第三回對抗演習中駆逐艦及艇
隊ヲ削除シタシ御承認ヲ願フ

軍務局長ヨリ參謀長宛通知 十月三十日附

アシガハル燒礦ノ採掘ヲ海軍直營ノ下ニ經營スル
コトニ決定相成燒礦ノ採掘及運搬等ニ關シ別紙
ノ通臨時南洋防備隊司令官ハ電報相成候條御
了知相成度

0785

右申進又

(別紙)

海軍次官ヨリ臨時南洋防備隊司令官宛 十月十日發
アノカハ此島嶼礦海軍直轄ト決定サレタリ付從來南
洋経営組合ニ使役シタル土人支那人等ハ可成其僅勤
續セヨ差當リ貴隊機長ヲ主任トシ守備隊監督ノ
下ニ採掘及乾燥事業ヲ経営ニ運送船、船腹ヲ利用
シ内地ニ輸送シテ後レ又南洋経営組合カ同島ニ置
キタル石炭糧食其他ノ需品等ハ相當ノ價格ヲ以テ
買上テ差支ナレ但シ其ノ数量價格ハ可成速カニ報告テ
リテレ為採掘ノ為要ナル日本人技手鑛夫等ノ自費並
爾後ノ経営要ナル需品糧食等ハ至急取調通知アリ

0786

十月二十二日

金曜

曇

布良望樓ヨリ電報
午後二時二十分着
参謀長及陸戦隊
土時半着午後零時半發

0787

十月二十三日 土曜 曇

加賀丸監督官ヨリ電報 午後十時三十分着

吳着

浅間艦長ヨリ参謀長宛電報 午前十時着

一、船橋トノ通信試験方案受領同地ヨリノ通信開始ヲ

十月二十四日ヨリトシ送信時域二十三日出港後、ヤ

ル止電信所、今シ通報

ニ通信試験中午後七時、分ハサテラシスコノ新開電

報ヲ傍受スルニ付午後七時半、改メラレ度シ

経理部長ニ訓令

0788

左記戦利品ハ使用ノ見込無之其ノ部會計官更ラ

ニテ通常物品ニ元受セムヘシ

但シ元受終ズ其ノ旨報告スヘシ

右訓令ス

左記

品名	数量	現 單	積 代	代 積	認 定
水雷 罐	七個	七	七	七	使用ノ見込ナシ廢品
鎗量破片	七個	七	七	七	ト認定

海軍大臣へ報告

戦利品ニ関スル件

當府保管ニ係ル元第三特別陸戦隊送付之戦利品中本年四月官房第一三八三號訓令ニ依リ

別紙、通海軍大學校へ送付致候
 右報吉久
 (別紙)

品名	数量	単價	代價	記
魚雷頭部	志何	五〇〇〇	五〇〇〇	
發火器受金	志何	五〇〇	五〇〇	
演習用爆藥	志何	志〇〇	志〇〇	
實用爆藥	志何	志〇〇	志〇〇	
手投彈藥	志何	五〇〇	五〇〇	
手投彈藥模型	志何	志〇〇	志〇〇	
手投網	志何	五〇	五〇	
鉄製信管	志何	志〇	志〇	
雷筒及信管	志何	志〇	志〇	

事

0790

石	石	石	石
同	同	同	同
川	川	川	川
老	老	老	老
何	何	何	何
傳	彈	彈	傳
火	頭	頭	火
棄	信	信	棄
筒	管	管	筒
志	志	志	志
何	何	何	何

南海九臨督官ヨリ報告

本船十一月一日迄、行動係定左記、通有之候

寄港地 入港時日 出港時日 記

事

吳 十月十四日 夜時 船種 煤炭 五、噸 搭載

佐伯 灣 十月廿二日 午前 同 廿八日 午後 船隊 二 給炭

吳 同 十月廿九日 午前 同 卅一日 午前 煉炭 補載

神 戶 十月廿一日 午前 船隊 二 給炭

右報告又

大演習第 1 期 横領 賀 鎮 守 村 演習 終 結

0792

十月二十四日 日曜 雨

鹿兒島丸監督官ヨリ電報 午後土時二分着
二十七日午前入港ノ豫定獨逸人一名便乗ス

十月二十五日 月曜 雨

0793

0794

十月二十六日 火曜 曇

臨時南洋防備隊司令官へ通知

臨南洋機密第五四號ニ七送付ニ係ル左記戦利品
本月十五日南海丸ヨリ受領

右通知ス

左記

品名	数	重	記	事
彈藥	包	六〇〇	〇	〇
空	包	〇	〇	〇

但安全身火線式箱現品ナク受領ス

海軍大臣へ報告

不用戦利品元受ノ件

本年三月三日受領元受波丸指揮官送付ニ係ル左
記戦利品ハ使用ノ見込無ク修條海軍戦利品取
扱規程第七條ニ依リ通常物品ニ元受ニシメ候
右報告又

品名	数量	見 積 代 價	認 定
水雷銃	壹個	志〃〃	使用ノ見込ナシ廢品ト認定
銃量破片	壹個	式〃〃	
		知〃〃	

0796

十月二十七日 水曜 量

参謀長ヨリ軍務局長南洋防備隊司令官各鎮守村副官ハ電報

鹿兒島丸土月四日午後一時南洋群島ニ向テ出港豫定

横須賀海軍經理部長ヨリ報告 十月二十日附

通常物品元受ノ件

左記戦利品ハ横鎮第一五八號ノ二ノ訓令ニ依リ十月二十日當部會計官吏於テ通常物品元受濟
右報告ス

左記

品 名 額 数量 見換代價 代價 元 事

0797

水雷 罐
 罐量 破片 何
 何
 志 志
 志
 志
 志

海軍省副官ヨリ副官宛通知

十月二十日附

海軍用船ニ便乗並澳船搭載方ノ件

本件ニ関シ別紙ノ通達詔會ヨリ請願ノ末東ル上
 月初旬貴地出帆ノ豫定ハ鹿見丸ニ便乗並搭載方
 許可相成候條可然御取計相成度
 右申進又

(別紙)

調査用澳船搭載額

一日本船澳船

貳隻

但各長三十七尺肩中六尺内外附属船具帆具共

右今般我軍事的占領中、南洋東加里
島附近ニ於ケル水産物調査致度ト存候得共同
下該方面ヨリテ本年迄般ノ用途ニ供シ得ヘキ船艙
存在セス隨テ該地方ニ於テハ右等物件、賃借差
ク買入レ等、途全ク無ク候條實駐調査ノ用
的ヲ貫輸セントモ一切ノ必要具ハ不得止現時該方
面ハ航行中、御省御用船ハ搭載ノ儀御許不相
願候外無ク次第ニ御座候然ルニ右ノ事帝國ノ
産業上ニモ甚クモナル關係ヲ有シ候儀御座候存
候間畢竟ニ農商務省ニ向ケ同省ヨリモ御省
ニ宛テ、儀ニ付御出會方願出置候處該省ヨリハ
本件ニ關シ、去ル七月二十日付ヨリ既ニ御省ニ宛テ
御務深相成趣ニ御座候就テ、何卒右調査

用漁船搭載ノ儀御許可被成下度計劃ノ大要
ヲ具シ以候奉願上儀也

計劃ノ概要

一 調査事項

釣籠試漁(手釣)雜魚ヲ採捕スル肥料
及食用加工ノ設備養殖場

一 調査期限

約壹ケ年

一 漁夫

四名

一 調査資金

金四千圓

以上

御用船便兼願

別紙調査用漁船搭載方御許可ト共ニ何卒左記
五名並調査用具若干ヲ該漁船ト共ニトラウク島

追便兼御許可被下度此故并テ奉願修也

監督者 柳田忠次 明治十七年生

源 夫 矢野弥右衛門 明治十四年生

源 夫 肥塚梅一 明治十七年生

源 夫 松田豊光 明治二十年生

源 夫 中江甚助 明治三十年生

以上

東京市麻布区築筒町五十五

黒龍會

海軍大臣宛

海軍省副官司副官宛通知

十月二十三日附

鹿児島丸復兼省二回又几件

0801

左記者来ル上月初旬貴地出發、像定丸鹿
先島丸之便乘南洋方面へ渡航方許可相成候
年可然御取計相成候

左記

南洋諸島へ 長崎高等商業学校教授

淡野金三衛

東名リ群島知事へ島へ村澤清三郎

表部義太郎

表部儀助

山口幸太郎

佐藤真

青柳葵末男

南洋諸島へ

同

以上

右申進ス

海軍大臣宛電報

ヤルトトヨリ退去ヲ命セタル獨逸人ノレル鹿見
島丸ニ便乗本日當港着職業ヤルトト會社備
人行先地「ホル」此軍事關係元歩兵卒、宣誓書
内容例ノ通

ヤルトト身備隊長ヨリ參謀長ニ通知 十月十日附

宣誓書送付ノ件

左記ノ者當民政正ニ在任ノ處今般軍政上ノ必
要ニ依リ退島セシメ鹿見島丸便ヲ貴地追送致
致候就テハ別紙宣誓書ハ臨時南洋群島防

備隊司令部ノ命ニ依リ直送致候條御查收相成度
右送付又

別紙宣旨書有畧
ヤルト會社被傷人 エツチマラー

0804

十月二十八日 木曜 晴

海軍大臣へ上申

戦利品棄却ノ件

本年一月十日受領第三特別陸戦隊指揮官返附
ニ係ル別紙ノ戦利品ハ使用、見込無之通常物品ニ
元受致候處危険ニ付投水棄却致候條件御認許
相成度

右上申又

(別紙)

品名	数量	見積	代	代	認	是
鉄製信箋	式何	式何	式何	式何	認	是

使用、見込ノ危険ヲ察ス
廢分ニ至ルト認ム

手投爆	傳火	碎頭	同	同	黃銅製信管
彈	棄筒	信管	(川)	(中)	(大)
七個	式個	式個	式個	式個	式個

軍務局長ヨリ參謀長へ通牒

十月二十七日附

閉囊郵便物取扱廢止ノ件

軍艦隊間ト横濱賀郵便局間ニ工作船間東九ト横濱
 郵便局間ニ閉囊交換ノ件ニ關シ舊年十月二十五
 日附軍務機密第三九四號及本年九月十日附軍
 務機密第三九五號ニ以テ何レモ申進置修廢今

般石取扱ヲ廢止セシ候條御了知相成度
石通際又

神奈川縣知事(電報)

午前九時五分着

ヤル上島退去ヲ命セラレタル獨逸人ヨリ午前八時半横須賀發汽船ニテ貴地ニ送ル

海軍大臣ヨリ訓令

十月二十七日附

鹿児島訃

後送ノ獨逸人ニ関スル件

鹿児島丸便ニ依リ後送ノヤル上島ヨリ上令
社使用人獨逸人ヨリ上ハ既ニ宣撫艦濟ニ付解放
上地方憲ニ引渡シ最近便ヲ以テ帝國領土外
ニ退去ヲ命スヘシ

0807

右訓令又

海軍大臣へ報告

南洋群島ヨリ後送ノ独逸人ニ関スル件

「ヤルト」島ヨリ鹿見島丸ニ便乗本日常港着

シタル獨逸人ハ「レ」ニ付調査シタル事與た通リ

右報告又

左記

一、姓名 ハイニリツヒメーレル

二、原籍地 獨逸メクレンブルグ

三、年齢 三十八

四、職業 ヤルト會社傭人

五、行先地 ホノルルニ至リ當分滞在

海軍大臣へ報告

六、退島理由

軍政上、必要に依りヤルト牙備隊長遠山彦次ヨリ退去ヲ命セラルタルニ由ル

七、牙備隊長ノ執リタル處置

別紙ヤ政廳第八九號白紙付宣旨書通達山牙備隊長ニ對シ宣旨書セシメタル上退去ヲ命シ鹿兒島丸ニ便乘横濱賀ニ送致シタルモノナリ

(別紙有界)

南洋群島ヨリ後送獨逸人ニ関スル件

ヤルト島ヨリ後送シタル獨逸人ニ對シ最近便ヲ以テ帝國領土ヨリ退去スヘキ方ヲ命シタル上

0809

前九時十五分神奈川縣警部補山下仁志引
渡シ洗務部汽艇ニ横濱向ケ出發セシメ候
右報告又

0810

十月二十九日 金曜 快晴

横須賀海軍経理部長訓令

別紙戦利品ハ使用ノ見込ナキニ付其ノ部會計在吏ヲ
 ニテ通常物品ニ元受セシムヘシ
 但元受終了ハ其ノ旨報告スヘシ

石訓令又

(別紙)

品名	数量	見積	代價	代價	認	定
小銃	式	式	式	式	備見込	廉苗ト認定
猟銃	式	式	式	式	同	
拳銃	式	式	式	式	同	

0811

小銃得毫(銃) 内筒砲大 同小 八吋二被帽彈 火冊 解核自感飯 太 銅 羅 鐘 鼓 内 膛 砲 砲 儀 彈 填 丸 爆 發 尖

毫 毫 毫 毫 式 毫 毫 毫 毫 毫 毫

毫 毫 式 七 式 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫

毫 毫 式 七 式 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫 毫

同 分 解 多 活 物 了 了 了

分一 式
 眞雷頭部
 黒塗箱
 發火器支金
 瀧川用煤發火
 蓄用煤發火
 手投煤發
 手投鋼
 鉄製信管
 黄銅製信管伏
 同 (中)
 同 (小)
 彈頭信管

式 式 四 參 七 七 參 四 式 式

式 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

此信管在投水處分至
 此ト認ム
 投水處分至此ト認ム

傳火幕簡

斗

尾

部、同

(終)

海軍大臣報告

鹿兒島航路豫定件

鹿兒島丸第七回航路別紙通豫定致候
右報告ス

(別紙)

寄港地名 入港時日 出港時日

横須賀 十月七日午後

二 見 十月十日午前 十日午後

サイハン 十四日午前 十四日午後

トラツク 十七日午後 十九日午後

オヘアイ 二十日午前 二十二日午後

摘要

横須賀	二見	サイパン	トラツク	モクモク	ヤツポ	バラウ	アγκαウル	パラウ	ヤツポ
					十二月二日午前	三十日午後	二十八日午前	二十六日午後	二十日午前
					十一月二日午後	三十日午後	三十日正午	二十七日午後	二十五日午前
					三日午前				
					七日午前				
					十一日午前				
					十六日午前				
					十九日午前				

0816

十月三十日 土曜 曇

參謀長ヨリ臨時南洋群島防備隊參謀長宛電報

鹿兒島丸行動豫定十一月七日横須賀發十日二見十四日サイパン 十七日ドラック 着十九日發二十二日オレア 二十四日ヤップ 着二十五日發二十六日ハラウ 着二十七日發二十八日アガウ 着三十日發ハラウ 着同日發十二月二日ヤップ 三日モクモク 七日ドラック 着九日發十二日サイパン 十六日二見十九日横須賀着 南洋貿易會社汽船平順丸十一月上旬當地發東航路 就少豫定

0817

海軍大臣ノ電報

鹿兒島丸出港期日ヲ十一月七日午後一時ニ
改ム

海軍大臣ノ報告

不用戦利品元受ノ件

大正三年十月二十九日受領第一南遣技隊ヨリ
送附ニ係ル戦利品中別紙物品ハ使用ノ見込ナキ
ニ付海軍戦利品取扱規程第七條ニ依リ通常
物品ト元受セシメ候
右報告ス

別紙

海軍大臣報告

品名	数量	單價	核代價	認	定
小銃 <small>リボルバー</small>	貳	壹、〇〇〇	貳、〇〇〇	廢品ト認定ス	見込ト見込ト
獵銃 單發	壹	五、〇〇〇	五、〇〇〇	同	同
拳銃 百ニテ型	四	五、〇〇〇	廿、〇〇〇	同	同
小銃彈藥包 <small>(大藥)</small>	壹	參	參	同	同

但し小銃彈藥包十發分ノ火藥ハ大正三年十一月十七日官房第三三八三號ノニテ棄却方認許濟ノモノ

客年十一月横鎮第三二二號参考兵器元受上申本年三月官房第七〇六號不認許ノモノ

0819

不用戦利品元受ノ件

大正三年十二月十日受領第一南遣技隊
ヨリ送付ニ係ル戦利品中別紙物品ハ使用ノ
見込無之ニ付海軍戦利品取扱規程第
七條ニ依リ通常物品ニ元受セシメ候
右別紙

品名	数量	單價	積代價	認定
内筒砲	五	貳〇〇〇	貳〇〇〇	兵署トシテ使用ノ見 込ナシ廢品ト認定ス
内筒砲	五	貳〇〇〇	貳〇〇〇	
八吋三破帽彈	五	貳〇〇〇	貳〇〇〇	
火管	五	貳〇〇	壹〇〇〇	分辦危險物トス
八吋八發發射機	五	五〇〇	五〇〇	

備考 本年一月横鎮第一五八號ノ一二参考兵署ト

シテ元受上申不認許ノモノ

海軍大臣一報告

不用戦利品元受ノ件

大正三年十二月七日受領香取艦長ヨリ送付
係ル戦利品中別紙物品ハ使用ノ見込無之ニ付
海軍戦利品取扱規程第七條ニ依リ通常
物品ニ元受セシメ候
右報告久
別紙

品名	数量	単價	積代價	認	定
大鼓	片	片	片	片	片
銅羅鐘	貳	片	片	片	片

兵器トシテ使用ノ見込ナシ
廢品ト認定ス

備考 ^{本詳頁} 横鎮第一五八號ノ三兵器ニ元受上甲不認許ノモノ

海軍大臣へ報告

不用戦利品元受ノ件

大正三年十一月七日受領第一南遣技隊ヨリ送付ノ係ル戦利品中機物品ハ使用ノ見込無之ニ付海軍戦利品取扱規程第七條ニ依リ通常物品ニ元受セシメ候
右報告ス

別紙

品名	数量	見積代價	認定
内 膽 砲	参	貳〇〇〇	兵器トシテ使用ノ見込ナシ 廢品ト認定ス
装 填 砲	壹	七〇〇〇	同

彈丸

参 貳〇〇〇 六〇〇〇月

大寸魚雷演習用銃部

壹 五〇〇〇〇 五〇〇〇〇月

爆發尖

壹 貳五〇〇 貳五〇〇月

ゲー

貳 貳五〇〇 五〇〇〇月

備考 各年十月横領第三二一編ノ一一考考兵器

元受上申不認許ノモノ

海軍大臣へ報告

不用戦利品元受ノ件

本年一月十二日受領第三特別陸戦隊
 ノ送付ニ係ル戦利品中別紙物品ハ使用
 ノ見込無之ニ付海軍戦利品取扱規程第
 七條ニ依リ通常物品ニ元受セシム候

右報告ノ

別紙

品名	数量	見積代價	見積代價
魚雷頭部	貳	五〇〇〇	五〇〇〇
黒塗箱	四	五〇〇	四〇〇
發火器受金	參	五〇〇	五五〇
演習用爆發尖	片	五〇〇	五〇〇
實用爆發尖	片	五五〇	六五〇
手投爆彈	七	五〇〇	三五〇
手投鋼	參	五〇〇	五五〇
鉄製信管	貳	〇〇〇	〇〇〇
黄銅製信管(天)	貳	〇〇〇	〇〇〇
同	貳	〇〇〇	〇〇〇

認定

使用ノ見込ナシ炭品ト認定
以下記事項同シ
本年二月後鎮弟五八師受
領報告黒塗箱七個ノ内

黒塗箱四個ノ内格納
シテ手投水処分至當ト認ム

投水処分至當ト認ム

同

同

貳

〇

〇

彈頭信管

貳

〇

〇

俾大藥筒

貳

〇

〇

備考 本年一月横鎮第一五八號ノ三六参考兵器

元受上申ノ処不認許モノ

軍務局長ヨリ南洋防備隊參謀長宛電報

上海「ヤツプロ」間獨國海底電線ヲ沖繩島ヲ引揚ケ本邦線ニ接續シ先以テ本邦「ヤツプロ」間ニ有線電信（逆修）開カントスルノ内議アリ就テ「ヤツプロ」在ル電信機械及二次電池並課電用發電機等ノ種類名稱及現状並修理ヲ要スルモノハ其ノ程度及貯藏海底電線ノ種類大サ長サ及其ノ現状等

詳細至急電報サレタリ

海軍大臣一報告

戦利品受領ノ件

臨時南洋群島防備隊司令官送付ノ係ル別紙目録ノ戦利品九月九日受領

右海軍戦利品取扱規程第三條ニ依リ報告ス

(別紙) 戦利品目録

品名 数量 記 事

交流機 台 個

直流電動機 台 個

感動線二次線 台 個

感動線用心鐵 台 個

レイデン	瓶	片	貳	個	合計大三個小九個
振動変圧器	片	貳	個		
硝子製圓形碍子	八	個	個		
変圧器二次線	貳	個	個		
保護蓄電器	片	個	個		
放電器	片	個	個		
丁式山形受信器	片	組	個		
引入口碍子	片	個	個		
テニツ式測波器	片	個	個		
備考	レイデン瓶	片	貳	個	南海丸ヨリ受領
		片	貳	個	

内台付大三個小九個
八月十五日

0828

十月三十一日 日曜 曇

參謀長ヨリ軍務局長宛通知

運送船鹿兒島丸艙装方案並工費

ニ関スル件

運送船鹿兒島丸燐鍍搭載ニ付要スル艙装並
ニ工費左ノ如シ

艙装

- 一、第二中甲板ノ客棚ヲ取除キ其ノ材料ヲ使用シ全
位置ニ搭載スルキ船用炭ノ圍壁ヲ取付ルコト
- 二、第三下甲板ノ貨物棚ヲ取除クコト
- 三、燐鍍積載用「ハッチオーニング」七枚（Cockham）ヲ備

付クルコト

四、ゴシフチシグボードに（杉ト外、メノド、メノメ、メノ）九十六枚

ヲ備付クルコト

五、艫内荷敷用藁筵五百枚ヲ備付クルコト

六、工費六百圓

内 材料費 二五〇.〇〇.〇

工 費 二〇〇.〇〇.〇

附 屬 費 一五〇.〇〇.〇

七、竣工豫定 十一月六日

右通 知ス

0830

大正四年十月午後二時横須賀氣象表

十月	月	日	氣壓 <small>(海面)</small>	氣溫 <small>(概区)</small>	風向	風速 <small>(秒)</small>	天氣
十一日	七	六	五	二二・一	北北東	只五	曇
十日	七	五	九	二五・六	北	六・一	快晴
九日	七	五	六	二七・八	西南西	八・三	快晴
八日	七	四	五	二七・三	南西	一四・三	快晴
七日	七	五	七	二九・二	北北西	六・一	兩
六日	七	六	六	二三・八	北北東	二・八	曇
五日	七	六	九	二五・〇	東北東	三・三	快晴
四日	七	六	四	二四・〇	北東	四・〇	快晴
三日	七	六	四	二一・七	北北西	只五	曇
二日	七	六	九	二〇・八	北	四・二	兩
一日	七	六	七	二三・一	北北東	三・六	曇

十一日	七月五、五	一七、四	北	西	八、六	雨
十二日	七、五、四、五	二、三	東		〇、六	晴
十三日	七、六、〇、六	一、九、五	東北	東	三、九	曇
十四日	七、六、八、九	一、九、九	北	東	三、三	晴
十五日	七、六、四、六	一、五、三	北	西	三、三	雨
十六日	七、五、〇、四	一、八、一	北	西	一、九、〇	曇
十七日	七、五、七、〇	二、五、〇	北	東	一、二	快晴
十八日	七、六、三、七	二、二、一	東北	東	二、〇	快晴
十九日	七、六、五、三	二、一、二	北	東	六、八	曇
二十日	七、五、九、一	一、七、九	北		五、〇	曇
二十一日	七、六、二、四	一、八、五	北	東	五、五	曇
二十二日	七、六、三、一	一、五、二	北	西	八、三	雨

三十一日	三十日	二十九日	二十八日	二十七日	二十六日	二十五日
七五八七	七六七六	七五三二	七六三七	七五九三	七六三〇	七六五一
一五五北東	一三九北	一三八北東	一六四北東	二〇四南	一五四北	一五一北
六四曇	二一曇	八六快晴	七四晴	三二曇	七二曇	八九雨

0834